

4 6つの基本テーマの取り組み

(1) 生活利便性

基本方針

便利で住みやすい暮らしを目指す

【現状】

- ・ 1970年代頃から、急速に住宅地化しました。
- ・ 住宅地化については、西部地区は区画整理の環境下で進展してきました。東部地区は、旧来の田園地帯から徐々に新しい住宅が建設されてきました。
- ・ 人口、世帯数は数十年来、急激に増加してきましたが、昨今はやや鈍化傾向にあります。
- ・ しかし、北区の中でも希少な人口増加地帯です。

【課題】

- ・ インフラ関係の整備が進んでいませんでした。
- ・ 賀茂川を挟む東西地域でインフラ整備に差があります。特に東部地区では道路網、公共交通、公共施設（公園、集会所、公安・文化施設等）の整備が求められます。
- ・ 日常的な買い物、医療・福祉サービス等が十分に享受しがたい状況です。
- ・ 美しい景観（自然を生かした眺望や町並みなど）の保全、その展開が期待されます。
- ・ 循環型環境（省エネ、ゴミ対策、リサイクルなど）に配慮した暮らしが望まれています。
- ・ 公共交通機関の充実が期待されます。



【取組の方向】

- ・ 道路整備に重点的に取り組みます。（道路網は利便と安全を目指すとともに地域発展の根幹）
- ・ 人の移動手段の公共交通機関へのシフトを図ります。
- ・ 長期計画ながら、現時点からステップを踏み出します。
- ・ 行政と地域が協働して、改善、開発してゆく“共汗”認識と行動が必要です。
- ・ 学区民みずからのソフト対策が呼応してゆくことが必須です。

【具体的な取組】

①生活の利便と地域発展のための道路の整備、公共交通機関の充実

- ・ 地域内の都市計画道路「幡枝葵森線」の完成
- ・ 地域内各所にみられる狭隘路（里道を含む）の対策
- ・ 歩道の整備新設
- ・ バス路線の新設、充実（市バスの北伸）
- ・ 新しい交通機関の採用検討
- ・ 地下鉄延伸の検討

②快適な生活環境の開発のための公共施設の充実

- ・ 世代を超えて自由に集い、語り、学びそして会議できるスペースの新設（自治会館の設置等）
- ・ 子どもや幼児のあそび場所、高齢者の集う場所となる公園を東部地区に新設
- ・ 西賀茂バスステーションを地域の活性化の中心的拠点とする再整備を検討

③医療・安全施設の充実、新設

- ・ 医療機関の誘致（民間を含む）—福祉・医療ゾーン構想
- ・ 交番の新設と情報交流機関化

④すぐれた景観づくりと地球の環境問題に呼応したキャンペーン

- ・ 学区を挙げての、まちの総合美化キャンペーンを継続実施
- ・ 地域特性を生かした自然と文化の融合景観づくり
- ・ 個人及び学区全体で、省エネ、ごみ減量化対策を実践（自然循環型社会実現への参画）
- ・ 自然エネルギー対策の関係機関との連携

⑤地域内外の民間機関・組織や行政機関との連携

- ・ 京都産業大学、柘野小学校、西賀茂中学校、京都ゴルフ場、上賀茂神社、地元企業・団体との地域連携強化に向けた呼びかけの実施（仮称「京都市北部地域 文化開発協議会」の立ち上げ）
- ・ 文化（商業を含む）施設の誘致

(2) 産業

基本方針

水・農を中心に地域の発展と住民の豊かさを展望する

【現状】

- ・山林・賀茂川など、自然が豊かな土地柄です。
- ・農業中心に栄えた地域であり、農住併行してきた歴史をもっています。
- ・農林水産業が、柗野の産業を特徴づけるものの一つとなっています。
- ・柗野の別れ近傍にあった商業集積は縮小しています。



【課題】

- ・農林水産業の次世代の担い手が減少しつつあります。
- ・今後、休耕地が増加する可能性が高くなっています。
- ・地域の産業展開が期待されます。

【取組の方向】

- ・未来へ向かって、地域の発展と地域住民の豊かさを展望します。
- ・農林水産業を軸に、地域産業の新しい展開を模索するとともに、その担い手を育成します。
- ・柗野の豊かな自然環境を保ち活かす自然エネルギーの活用を検討します。



【具体的な取組】

- ①産・官・学が連携した柗野の地域産業を育てる仕組みの検討
 - ・柗野とその周辺地域における、民間企業、大学等の研究機関、行政等と連携し、地域産業育成のプラットフォームとなる柗野地域産業推進協議会（仮称）の設置など、仕組みづくりを検討
 - ・休耕地となる見込みの情報収集とその活用を検討する場づくり
 - ・「賀茂」のブランド力を活用した更なる地域活性化の検討
- ②地域産業の積極的展開
 - ・農林水産業に関わる研究機関の設立・誘致
 - ・野菜水耕栽培新開発（クリーンセンターの温水利用）
 - ・植木、木材栽培開発（水害に対応できる樹種育成、屋上緑化の導入など）
 - ・河川やため池を利用した淡水魚養殖の研究
 - ・地酒の研究（産業化）
- ③循環型環境と自然エネルギーの活用を進める
 - ・各家庭、公的施設、休耕地等を活用した太陽光発電の普及
 - ・現柗野ダムにおける小水力発電の導入
 - ・河川地域、農水路でのマイクロ発電の導入と農業への利用
 - ・植物資源（木材、野菜）をもとにしたバイオマスの燃料化研究



(3) 安心・安全

基本方針

安心して安全に暮らせるまちを目指す

【現状】

- ・住民一丸となった自主防災活動（防災訓練、防災マップ等）、お年寄りや身体の不自由な方々へのボランティア活動、子供安全見守り活動（子供安全マップ）、交通安全活動、犯罪防止活動、安心・安全ステーション活動、防火防災活動など、学区内各種団体の協力のもと、暮らしを自分たちの手で守ろうとする活動が日々活発化しています。

【課題】

- ・公園が不足しています。（東部地域）
- ・道路の狭隘による災害時の避難場所と避難通路に問題があります。（東部地域）
- ・公共交通、公益施設が不十分です。（西部地域）
- ・防犯灯の未設置など、防犯上の対策が必要です。（西部地域）
- ・交番の整備が必要です。（東西共通）
- ・天災（水害、土石流災害、地震災害、獣害等）への対応力を向上させる必要があります。
- ・人災（交通災害、不審者等誘拐犯罪、不審火放火等）への安全対策が必要です。
- ・各課題に対する共通認識の欠如が見られます。

【取組の方向】

- ・地域の特性に合わせた、町内会単位の動きを活性化する仕組みづくりを進めます。
- ・子供からお年寄りまで、全学区民が安心して安全に暮らせるためのまちづくりを目指します。
- ・実現に向けて、学区民が共に考え、共に活動し、共に支えあいながら、取り組みを進めます。
- ・地域住民の、自助、共助による防災意識の向上を図ります。
- ・地域全体の横の連携を密にし、生きた組織運営を目指します。
- ・住民の防犯意識を高め、犯罪が起こらないまちを目指します。
- ・隣近所が声を掛け合うことが出来る環境づくりを進めます。
- ・住民と行政の協働により進めます。

【具体的な取組】

①まちの防災体制と機能の強化

- ・災害タイプ、地域特性に応じた防災計画、訓練の実施
- ・地域関係機関との連携の体系化（防災協定の具体的運用、避難所・広域避難場所との協定）
- ・天災に対する緊急避難場所の設置と避難誘導組織体制の確立
- ・消火栓、水槽（公園地下へ）の設置
- ・地震災害、土砂災害警戒区域指定の広報の徹底、土砂災害発生時及び発生後の対応（消防局との連携を深め、防災講座などを実施）
- ・防災機材の連合会確保及びその保管（町内ごとの確保保管、救急救命器具の設置、救命救急講習会の開催）
- ・大型ハード対策（柵野ダムの浚渫整備、堤防補強及び河川段差工の補強整備、河床掘り下げ通水路の整備、砂防堰堤の設置、通学路その他の橋の整備強化）
- ・残存する井戸の確認と、断水時活用の検討

②日常生活の安心、安全の確立

- ・交番の建設及び充実（設置場所の確保と建設、常駐化を含む情報連絡ルートの確立）
- ・ステーションシステムの充実（団体間、団体と交番の交流）
- ・危険箇所の共有化（安全マップ作りとその対策、子供・高齢者安全対策とその教育、これらに対する警察、連合会、学校、民生児童委員会との連携）
- ・不審者対策等防犯対策（ステーションシステムを活かした警察との連携、パトロール活動の強化）
- ・交通安全対策（交通関係団体と警察との連携、パトロール活動の強化）
- ・防火対策（不審火、防火等に対するパトロール活動の強化と消火活動訓練）
- ・クリーンセンターのダイオキシン対策への継続監視

③世代を越えた交流と支え合いの推進

- ・子どもを守る取り組みの推進
- ・親子向け啓発事業等の推進
- ・町内単位で安心が得られる高齢者の支援体制づくり
- ・子どもとお年寄りが気軽に集うことのできる集まりの実施

④近隣地域との広域共同、協調の取り組み

- ・柵野、上賀茂、大宮等近隣地域との情報交換、共有、連携の強化



(4) 自然

基本方針

恵まれた自然を守り、育て、生かす

【現状】

- ・京都では珍しく賀茂川を真中にはさんだ学区で、5つの橋がかかり、田畑の広がる風光明媚な景観は、心のふるさとのような景色を呈しています。
- ・オオサンショウウオやチリツバキ等の貴重な生物や植物が生息しています。
- ・五山の送り火の季節には、遠くには大文字、間近には舟山を眺めることができます。
- ・昭和15年に建設された「柘野ダム」は柘野を代表する美しい景観のひとつとなっています。
- ・賀茂川では余暇を楽しむ人も多く、また山際ではハイキングコースとして東海自然歩道の整備もされています。

【課題】

- ・賀茂川等のさらなる治水対策が求められています。
- ・賀茂川や鴨川公園等にゴミの散乱が見受けられます。
- ・使われていない休耕田が増加しています。
- ・山林の荒廃に伴う獣害が多発しています。



【取組の方向】

- ・柘野の最大の資源である自然を守り、育て、活かします。
- ・防災の観点も忘れてはいけません。
- ・人と自然との関わり合いの中で形成された柘野の里景観を保全し最大限活かします。

【具体的な取組】

- ①住民による美化と利用者マナーの向上促進
 - ・公園やダム・河川等の公共の場を皆が気持ちよく利用できるよう、ルールやマナーを共有
 - ・野生動物との共生（貴重な生物の成育環境の保全など）と鹿、猪、猿等の対策
- ②賀茂川等の河川環境の整備
 - ・賀茂川の環境整備
 - ・源流域の河川整備
- ③遊休地等の有効利活用
 - ・休耕田の活用
 - ・柘野らしさを活かし、時代の変化に合わせた土地区画の整理
- ④自然や田園を生かした柘野らしい景観づくり
 - ・自然環境の保全
 - ・田園風景の保全
 - ・美化憲章の推進による美しい学区景観の整備
 - ・柘野の守るべきものは何で、そのためには何ができるのか、そこから考える組織作り

